

川口市特別職報酬等審議会 会議録

会議の名称	川口市特別職報酬等審議会
開催日時	令和元年6月11日（火）午後1時30分から午後2時5分
開催場所	川口市役所本庁舎2階第3会議室
出席者	（会 長）伊藤会長 （委 員）鹿嶋委員、櫻井委員、永田委員、平野委員、松井委員、 峯岸委員、吉田委員
会議内容	1 審議 ・市長及び副市長の給料の額について ・議会の議員の議員報酬の額について 2 閉会
会議資料	1 次第 2 資料
発言内容	事務局 ただいまから、第3回川口市特別職報酬等審議会を開会いたします。 本日、出席予定でありました鈴木委員、細野委員におかれましては、 所用により欠席する旨の連絡を受けておりますので、ご報告申し上げます。 事務局 本日の審議会を傍聴したい旨の届け出が4名の方から提出されております。 これを許可したいと存じますが、よろしいでしょうか。 － 全員異議なく了承 － それでは、傍聴希望の方に、入室していただきます。 事務局 それでは、伊藤会長、会議の進行をよろしく願いいたします。 ■ 1 審議 会長 前回の審議を振り返りますと、議員報酬について事務局から「同規模 中核市の平均値と同等まで引上げ」との案が示されました。委員の皆さん の意見では、現状維持との意見はあったものの、事務局案どおりや微 増といった、引上げへの意見も出ていたところです。また、政務活動費

の額が大きいという意見もありました。本日も、引き続き議員報酬の額について審議をいただくわけですが、その前にまず、前回事務局にお願いしてあった追加資料について、事務局で説明してください。

事務局

本日もよろしくお願いいいたします。

それではお手元の資料につきまして、ご説明申し上げます。

1 ページをお願いします。この資料は、川口市議会の議員定数の推移についての資料でございます。前回ご質問のありました、旧鳩ヶ谷市の議員定数は15人で行っていただきました。

2 ページをお願いします。この資料は、一般会計の当初予算における民生費の占める割合についての資料でございます。棒グラフの青い部分が、当初予算額全体、赤い部分が民生費、緑色の折れ線グラフが予算額のうち民生費の占める割合を示したものとなっております。民生費とは、福祉全般、例えば生活保護、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉のために支出する費用のことでございます。

3 ページをお願いします。この資料は、平成30年4月1日現在の全中核市の政務活動費の一覧でございます。資料の下4行は、参考として全54市の平均、最高、最低、川口市のものでございます。

4 ページをお願いします。この資料は、平成30年4月1日現在の埼玉県内市及び近隣特別区の政務活動費の一覧でございます。

5 ページをお願いします。この資料は、過去3年分の各自治体の政務活動費の執行状況の一覧でございます。表の左から、予算額、実際に支出した額、執行率となっております。金額が記載されていない自治体については、ホームページ上に情報がなく、別途照会が必要なため、次回以降に間に合えば、再度配布させていただきます。

資料の説明は、以上でございます。よろしくお願いいいたします。

会長

追加資料について、質問がありましたらお願いいいたします。

会長

私からですが、5ページの政務活動費の執行状況の一覧についてですが、これは議員全員分のものでしょうか。

事務局

全員分のもとなっております。

会長

政務活動費については、あくまでも調査研究、研修等の議会活動に使うものであり、報酬とは性格が異なるため、ここでは、切り離して考え

て行かなければなりません。しかし、他団体と比較をしても、川口市の政務活動費は、非常に高いことがわかります。政務活動費の額について、この審議会で審議することはできないかもしれませんが、何か意見を言うことはできますか。

事務局

過去の審議会でも、報酬以外のことについて、審議会の意見を付記したことがございますので、そのような形であれば、意見として付記することはできます。

会長

前回、政務活動費が高いという意見が、ほとんどの委員さんから出た中で、報酬を同規模中核市平均まで上げるのであれば、政務活動費も平均程度まで見直すことも考えてもよいのではないかという意見や、市長、副市長の給料の減額を廃止するのであれば、微増は止むを得ないという意見もありました。報酬については、様々な意見がありますが、多くは微増といった引上げへの意見でありました。そこで、報酬については引上げの方向、政務活動費については意見を付記するという事で、一度議論をまとめ、額については、次の審議事項である、特別職の給料を審議した上で、仮に減額が廃止されるとすれば、その結果でバランスをとるということでどうでしょうか。

－ 全員異議なく了承 －

会長

それでは、ここからは市長、副市長の給料の額について、ご審議願いたいと思います。現状では、市長、副市長の給料は平成15年度から6%の減額をしているわけですが、前回、事務局からは「平成15年度から実施している給料の6%削減を廃止する」という案が出ました。これにつきまして、皆さんからご意見をいただければと思います。

委員

平成15年度から6%の減額を実施し、15年以上がたっており、その間税込や徴収率も伸びており、さらに徴収率をさいたま市のように限りなく100%に近くし、税金を増やしていただくということで、6%の減額を廃止してもよろしいかと思えます。

委員

前回の資料の中の、埼玉県内市及び近隣特別区の特別職の給料の一覧を見ると、川口市の他に越谷市が令和3年3月31日まで、市長が3%、

副市長が2%の減額をしていることがわかります。川口市の場合、税収や徴収率は上がってきておりますし、徴収率は本来100%であるべきなのかと思いますが、そこは市長さんのお力なのかと思いますが、現行の6%を全て撤廃するというのはいかかなものかという感じもいたしますので、6%全てではなく、越谷市のように3%くらいあるいは2%くらいまでというのが、よいのかなと思っております。

委員

税収が上がってきているというのはわかりますが、徴収率を限りなく100%に近くするというのは当たり前のことだと思います。しかし、以前から川口市の徴収率が悪いということで、色々対策をしてきたということですが、私の聞いた話ですと、徴収率が上がってきたのは、奥ノ木市長に変わってからということですが、議員の報酬については、政務活動費が高いということもありますし、報酬とは別だという考え方もあるでしょうけれども、私は個人に入ってくるのは同じだと思いますし、使い方等は個人の問題であって、報酬を特段に上げる必要はないと思います。

会長

市長、副市長の給料についてはどうですか。

委員

市長が変わってから税収や徴収率が上がってきたという話も聞いておりますし、現実に上がってきているような所も見られますので、多少なりとも、元に戻すことには賛成です。

委員

端的に言って、6%の減額は廃止してもいいと思います。

委員

6%全てではなく、3%くらいにしてもよいのかなと思います。なぜなら、65歳から95歳まで生きるのに、2千万円必要だとTVで盛んにやっているものですから、いきなり6%全て元に戻すのは、市民感情を考えると3%くらいがどうかと思います。

委員

私も6%全て元に戻すというのはどうかと思うのですが、逆に賛成ではないのですが、6%を元に戻して、さらに給料を上げるという話も出てこないとは限らないでしょうし、今回の審議会で減額を廃止して、例えば、次の審議会で前回議員の報酬を上げたのだから、今回は特別職の給料を上げましょうという意見が出てくることも考えられます。ですから、6%全てではなく、多少なりとも元に戻すことはよいかなと思います。

委員

私は、端的に言って6%削減をなくしていいかと思います。

会長

皆さんから2つ意見がでました。1点目は、6%の減額を全て元に戻すということ、2点目は、全てではなく3%程度に戻したらどうかということ、これについて皆さん意見はございますか。

私の意見としては、給料を上げるのと、減額を廃止するのは違うと思います。確かに、3%元に戻すという考え方もありますが、やはり正常な形に戻すことがいいのかなと思いますが、どうでしょうか。

委員

例えば、市長、副市長の減額を元に戻す場合、現実的には、今6%減額しているものを元に戻すとすると、市民の方は、給料が上がったようなイメージがあるかなと思います。議員の報酬も、中核市になったのでそれに見合った報酬をとということもわかるのですが、中核市になったのであれば、市民感情としては中核市としての市全体の色々な課題に取り組むために、財源を使って欲しいと思います。

委員

議員報酬及び特別職の給料の見直しというのはどれくらいの間隔で行うのでしょうか。

事務局

特に決まりはございません。

委員

仮に特別職の給料の減額を廃止した場合、議員報酬も引き上げる必要というか、連動性があるのでしょうか。

会長

全く連動性がないというわけではないかと思いますが、今回の審議事項は、特別職は減額の廃止、議員報酬は引上げという考え方が異なるものなので、別に考えてもよいとは思いますが。

委員

政務活動費は議会で決めるのですか。

事務局

議会で決めます。

会長

当審議会の審議事項ではありませんが、やはり政務活動費が全国的に見ても高いということが皆さん気になるようですので、そのことはしっかりと意見を付記していただくようお願いします。

委員

やはり、資料を見ても政務活動費は高いと思います。もし、議員報酬を上げるのであれば、政務活動費も見直すことを考えるべきだと思います。政務活動費の執行率に合わせて見直すなど、当審議会の審議事項ではないかもしれないが、審議会の意見を付記していただきたい。

会長

政務活動費については当審議会の審議事項ではありませんが、全く関係ないとは言えないと思いますので、審議会としてしっかりと意見をしたいと思います。

委員

特別職の給料に戻りますが、平成15年度に当時の税込や社会情勢等を原因に6%の減額を実施することになったと思いますが、例えば10年後、20年後に税込や徴収率をこれだけアップさせるという目標を掲げていたのであれば、その達成率で減額の廃止の幅を決めてもよいのかなと思いました。

会長

前回、議員報酬を見直すのであれば、高齢者や社会的弱者にもう少し財源をとという話がありましたが、今回の資料を見ると、民生費は平成15年当時と比較すると約3倍になっているのですね。他にご意見がないようでしたら、今回特別職の給料の減額については、3%と6%元に戻すという2つの意見が出てきましたので、次回までに再度検討していただければと思います。議員の報酬についても、微増という意見もありましたので、次回答申案をまとめたいと思いますので、検討していただければと思います。

事務局

次回の日程ですが、皆様のスケジュールを調整した結果、6月20日(木)の午後1時30分から本庁舎2階の第3会議室で開催させていただきます。それでは、本日はお忙しいところ大変ありがとうございました。

以上